

第20回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成27年7月9日(木) 18時30分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：松山 哲男 会長
齋藤 正史 副会長
近井 一夫 委員
小幡 功 委員
吉元 美穂 委員
垣内 登紀子 委員
安達 陽子 委員
伊奈 綾 委員
千葉 洋子 委員
井上 昭人 委員
森元 俊明 委員
計11名

- ◆事務局：商工労政グループ 穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆議題：(1) 地域資源に関するアンケート結果の集約について
(2) 今後のスケジュールの確認について

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>(1) 地元資源とその付加価値に係る協議方法について</p>	会長	<p>第20回目の協議会を開催する。 本日の議題は、1. 地域資源に関するアンケート結果の集約について、2. 今後のスケジュールの確認について の二点である。</p>
	森元委員	<p>まず一点目について、先に調査を行った地域資源に関するアンケート調査の調査結果をみながら、今後どのように活用していくのかを検討していく。アンケート結果の一覧表を見て頂き、それぞれの意見を述べて頂きたい。</p>
	井上委員	<p>もつと的を絞らなければならない。現状のままの形で活用していくのは難しいのではないだろうか。アンケートの中で挙げられた活用方法は人それぞれの視点で異なるので、その中で絞った形での意見交換が必要ではないだろうか。</p>
	垣内委員	<p>非常に幅広い意見が出されているので、視点を絞ることは必要だと考える。例えば、一つの視点として、中小企業地域経済振興協議会という立場としての経済的な観点なのか、住みよいまちづくりを進める観点から子育て世帯の意見を反映した何かを考えるのかなど、一定の視点が必要だろう。</p>
	安達委員	<p>私も長く登別市に住んでいるが、知らなかったものが多く挙げられている。これらを全て活用するのは困難だと思う。</p>
	小幡委員	<p>全体を見ていると、「道の駅」に関することが数多く出てくる。これだけの意見が出てきているにも関わらず、未だに進展がないということに対し、どのような理由があるのかを明確にすべきだと思う。</p>
	近井委員	<p>道は作った方がいいと考えている。登別市は地形的に長く、地区の利害関係などの問題もあるかもしれないが、せっかくなら皆が集う場所が欲しいという意見が多い。ここに行けば市民が集まるといような場所があればよい。</p>

も、法律という制約が出て来る。登別温泉に駐車場を作ろうとしても、国立公園のため制約がある。札内町にレストランを作ると考えても、農地法という制約がある。

道の駅に関する意見が多く出ているが、そこで売ることが出来る地場産品があまりない。牛乳や魚の他には何を目玉にするのかを考えて見た時、道の駅はなかなか手を出しづらい。

安達委員

道の駅に物を作る以外に、遊ぶ目的などの複合型のものを作れば人が集うのではないか。

千葉委員

主婦としての視点から意見を述べるとしたら、知らない事が多すぎて、もっと早く知りたかった情報が沢山書かれていて、子供が小さかったら連れて行きたかった場所が多々ある。情報が発信されていれば、子供を連れて行ったときに、近くを立ち寄ってお金を落とすと思う。このような情報を、子育て世帯のお母さんに伝えてあげるべきだと思う。

伊奈委員

既存の場所を活用することで集客を見込める可能性がある場所が多くある。何かを新たに設置するより、既存の場所を磨き上げ、活用する策を考える方が良いのではないだろうか。

吉元委員

二つの課題がある。一つは、市内で購入したいものが無い、消費できる場所が無いという課題、もう一つは、知らない事が沢山あるという情報発信の課題を多く感じた。これらを直接解決していくためには、既存のものを改善すれば解決するものと、新たに組み込まなければならないものという、視点を変えて情報を整理する必要がある。

例えば、市民の消費を市内に取り込みきれないのは、仕方がない面がある。札幌圏で購入する、もしくはインターネットで購入するという人が、いきなり市内で購入するようにはならない。一方、市内でもそれらに負けず頑張っている企業もある。このように努力している企業に目を向けていくというのも方法の一つである。

	事務局	<p>新たな事業に対する法律の規制については、取り組めない理由を明らかにしながら、解消できる見込みについて提案していくことにより、新しい活用方法が見えてくると思う。</p>
	事務局	<p>列挙されている資源の中で、その活用主体は企業・市民・市のどの立場なのかを考えていくことが必要ではないだろうか。情報発信は市の広報を活用して頂くことが出来るが、広報誌の掲載には一定の制約があるため、企業にも協力を求める必要がある。誰が出来る分野の物なのかを明確に区分していく等、段階を踏んでいけば見えてくるものもあると思う。まとめるにはそれなりに時間を要すると考えている。</p>
	会長	<p>登別市内における資源に関する情報発信は必要なことだろうと思う。直接的に地域経済の振興に繋がることだけでなく、地域振興と産業振興は表裏一体のものであるため、地域振興を目指した結果として産業振興に繋げていくという視点も持つていくべきだろう。このアンケートをいかに活用していくのかについては、更に吟味していく。</p>
	事務局	<p>地域資源の活用方法について、更に検討していくため、事務局により今一度整理し、協議会に提示したい。</p>
<p>(2) 今後のスケジュールについて</p>	会長	<p>二点目の議題として、今後のスケジュールについては、前回の協議会の中でも一部触れたが、北海学園大学の 大貝准教授に依頼している登別市地域経済実態調査の報告書の提出予定が遅れることが予想されるため、資料のとおり日程を変更したいと思っている。報告書が出てくる間に、専門部会を設置した具体的施策の検討を進めていきたいと考えている。専門部会での検討内容と、大貝准教授からの報告書を基に、提言に向けた協議を行っていきたい。</p> <p>本日の協議会は、これで終了します。お疲れ様でした。</p>